広島大学高等教育研究開発センター

コリーグ

編集・発行　広島大学高等教育研究開発センター
〒739-8512　東広島市鏡山 1-2-2
TEL 082-424-6240　FAX 082-422-7104
URL: https://rihe.hiroshima-u.ac.jp

２０２２年５月

「コリーグ」55号　目次

巻頭言（１～３）創立50周年記念事業について（３）藤村正司先生のご退職によせて（４～７）第49回研究員集会報告（７）2021年度の公開研究会（８～９）センター往来（10）新任者・離任者から一言（10～15）情報調査室だより（16）

巻　頭　言

学問中心地と R-T-S ネクサス

有本　章
（広島大学名誉教授／兵庫大学学長顧問，高等教育研究センター長，教授）

想えば私の退官記念講演会（2007年）で「学問中心地」（COL）の研究について論述したのは，編著『学問中心地の研究』（1994年）をすでに出版していたごとく，自分には関心の高いテーマであったからである。その点，現在でも依然として関心の高い領域であることに変わりはない。当時の研究では，学問中心地は「エポニミー」を基に仏英独米と順次変遷し，日本は周縁から中心への移動を模索途上であった。その後起きた最大の変化は，中国が周縁から中心へ雄飛し，「学問生産性」の論文数では米国を抜いて一躍首位に踊り出たこと，高質論文でも英国を抜いて2位へと躍進したことである。逆に日本は10年前に米国に次いで2位に位置していた学問生産性が，最近は高質論文ではインドに抜かれて10位前後まで転落したし，経済の「空白の30年間」と共鳴したのか衝撃的な失墜を来した。同様に，2003年から「世界大学ランキング」が本格的に始動して現在まで20年の年輪を刻んだ結果，日本の状態は好転しないまま年々悪化した。

エポニミーを論拠に詮索していた当時は，仏英独米が学問中心地を極めた理由，日本が極める可能性を俎上に載せて論究していた。日本の大学の歴史は西洋に比して浅いため，当時は徐々に追いつくものと楽観視できる余裕があったが，彼我の距離は短縮するどころか次第に拡大の一途を辿った。過去10年間に日本全体の底力ばかりか大学の底力が衰退したことに起因して，日本が学問中心地になれる可能性は減少したのではないか。

かかる疑問を考える場合に，中世大学を欠如した日本では，近代大学創設の際に大学の理念として踏襲すべき精神を欠如して大学の空洞化を招来したのではないかと問わざるを得ないだろう。特に中世大学は UNIVERSITAS という「学問ギルド」によって「学問の府」を形成する点にこそ，重要なエートスや本質と直結した理念が存在したし，中世大学以来に学問中心地を形成した西洋の大学はその種の理念を追求した。ボローニャ大学やパリ大学はかかる学問の理念を標榜してパティキュラリズムに陥らずユニバーサリズムを追究したし，学

No. 55

生や教員も「学問の大学」の理念を標榜して世界の周縁地から中心地へ蝟集した。

中世大学の精神を踏襲した西洋の大学は，遅れて登場した米国の大学の場合でさえも，ジョンズ・ホプキンズ大学を先頭に哲学部や文理学部を大学組織の中枢に据えた。これに対して同じ近代大学でも日本の場合は，帝国大学の創設を典型にして「学問の大学」よりも「国家の大学」を志向したし，国家官僚の養成を第1にする法科大学（法学部）を中枢学部に据えて学部長は諸学部を代表する綜理（総理）に自動的に据えたのであった。

近代大学の出自を観察すると，中世大学の遺伝子を踏襲した米国の近代大学とそれを無視して新たな価値観を意図的に刻印した日本の近代大学が，その後にいかなる発展を辿ったかは検証されるべき興味深い問題となってしかるべきである。実際，米国は中世大学の精神に通じている「学問の府」を新たに形成した。換言すれば，当時出現した科学主義や研究主義を奉じて仏英の教育主義を超克し，学問中心地を極めたドイツモデルを踏襲して，パラダイム転換的な新たな学問中心地を構築することに成功を収めた。もちろん大学中枢に中世大学の遺伝子を配列させたのを皮切りに，学問の発展を支援し成長させるために経済，政治，社会，文化などの広く社会的条件を有効に活用した挑戦は無視できない。

このような中世大学から近代大学への展開を回顧して得られる学問中心地形成の歴史は，大学発展の本質として学問を把握するか否かに論点が存するから，学問以外の目的に翻弄されて構築された大学は，UNIVERSITAS の原点から逸脱しているばかりか，学問の遺伝子を踏襲せず，大学の名に値せず，大学本来の本質に悖るのは当然の帰結となる。

瞥見したように，大学の900年の歴史を紐解くと，中世大学を原点におき「学問の府」の形成を志向するギルドの営みを鋳型にして，その後の大学史が構築された以上，その理念，エートス，精神，価値観などを逸脱した場合には，自から学問中心地の構築を放擲するしかない。したがって，21世紀の「学問中心地」も決してその例外ではなく，この種の伝統を無視しては形成されることは能わないだろう。21世紀の学問中心地を決定する要因の出現は，科学主義や研究主義が台頭した19世紀以後の空気を吸収して強化されたのに伴い，研究志向が強まり「研究大学」の比重が高まった以後である。その典型は，2003年以来開始された世界大学ランキングの上位進出の有無となったし，そのことは個々の大学のみならず個々の国家の命運を左右するほどの威力を発揮するまでになった。

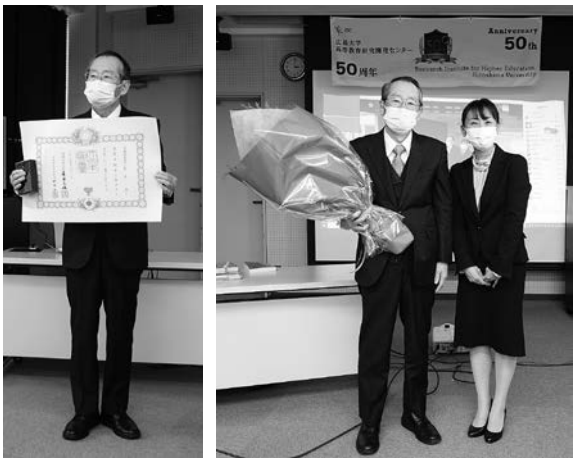
もちろん，ランキングに一喜一憂する必要はないし，かつて君臨した学問中心地がいまだに威力を発揮する「歯止効果」を有している点を否定できない。注意深く観察すると，上位進出競争が大学間や国家間で熾烈化しているのは，それだけランキングをめぐる競争が世界的現象と化しつつあるからである。その点から現状を直視すると，米国は上位を占拠している反面，従来の周縁地である欧米以外の国々はいまだ上位に進出できていないことが分かる。その一方で最近急速に台頭し，THEWUR2022の場合には上位16傑まで躍進した中国に注目すれば，今後はトップテンへと上昇する可能性は少なくないだろう。

このような状況を勘案すると，研究大学を中心にした研究生産性や学問生産性が学問中心地を決定する指標の役割を果たす時代はこれからも依然として持続する傍らで，研究志向のみに偏重せず，教育志向と学生の学修志向とのバランスの取れた，総合的な学問志向が実現しているか否かが今後の学問中心地を占う鍵となるに違いないはずである。

その意味では，私自身が1992年のカーネギー大学教授職国際比較調査に参画して以来，30年間に研究した成果を踏まえると，学問中心地とヴィルフェルム・フンボルトの提唱した「R-T-S ネクサス」との関係が存外深いと言えよう。というのは，米国はドイツモデルを移植した時点からフンボルトモデルを同時に移植して，「研究と教育と学修の統合」を模索し始めた結果，その成果が徐々に実現して学問生産性に目覚ましい効果を発揮したと見做せるからである。その成果は，ハインツ・マイヤーの研究によって指摘された通りである（Meyer, 2017）。それ以前にはバートン・クラークの研究によって，大学院教育の独米仏英日の比較を介して米国の成果の卓越性が証明されたのである（Clark, 1995）。加えて，私どもの国際調査に依拠すると，最近では研究志向のドイツモデルが優勢である中で，米国は R-T-S ネクサスへの高い同調度を示して来た。こうして，19世紀以来の米国の取組は研究，教育，学修の全側面に

おいて次第に効果を発揮し，学問ひいては学問生産性の発展に先駆性を発揮するまでに到達したと解される（有本，2022）。

その点，最近急速に学問中心地へと台頭した中国は，米国と同様の原理で説明できるか否かは検証を必要とするものの，もともと中国は教育を重視するフランスモデル型を移植したソ連型を踏襲したから体質的には教育志向が強いはずである。1980年代から米国モデルの研究志向を移植して従来の教育志向と統合を試みた経緯を踏まえると，最近その効果が発揮されたとの仮説を立てその信憑性を検証する必要がある。



有本章先生瑞宝中綬章伝達式および記念講演会の模様
2021年12月18日（土）に，元センター長の有本章先生の瑞宝中綬章を祝して伝達式および記念講演会を行いました。

【参考文献】

有本章［編著］（1994）『学問中心地の研究』東信堂。
有本章（2022）『学問生産性の本質－大学教授職の日米比較』東信堂。
Meyer, H. D.（2017）*The Design of the University*. Routledge.
Clark, B. R.（1995）*Places of Inquiry*. California University Press.

創立50周年記念事業について

大膳　司
（広島大学高等教育研究開発センター副センター長／教授）

広島大学高等教育研究開発センターは，世界的な動乱の時代を経て1972年に設立されて以来，高等教育研究を担う多くの研究者を迎え入れることを通して，高等教育研究を促進しているとともに，その研究成果の伝達・応用によって多くの高等教育研究者を養成し，広島大学をはじめとする国内外の高等教育機関の運営・開発にも貢献してきました。

2022年5月1日に創立50周年を迎えるにあたり，これまでの50年間に貢献いただいた高等教育研究者に感謝するとともに，次の100周年へ向けての大切な出発点として，本センターの将来像である「高等教育研究の新たな展開を先導する国際的な教育研究拠点としての地位の実現」に向けて，高等教育を巡る新たな期待や課題に対応していきたいと考えています。

そのために，2022年1月から12月までの1年間を50周年事業の実施期間として，以下のような活動を実施したいと考えています。

・創立50周年記念シンポジウム（2022年1月18日開催済）
・創立50周年記念特別イベント「苅谷剛彦先生と話そう」（2022年4月22日開催済）

・創立50周年記念特別イベント「苅谷剛彦先生と話そう：フォローアップ編」（2022年5月末～6月頃予定）
・創立50周年記念国際会議（2022年5月14日）
・創立50周年記念研究員集会（2022年11月予定）
・高等教育研究開発センター50周年史出版　など

さらに，これまでも RIHE の予算の中から，国内外の共同研究の支援，若手研究者や学生の支援を幅広く実施してきましたが，昨今の財政により，その規模は長期漸減傾向にあるため，「創立50周年記念基金」を創設し，RIHE 国際共同研究賞，RIHE 若手研究者賞として，有意な若手研究者・グループに支援を継続して行くことを計画いたしました。

つきましては，50周年事業の成功のために是非とも皆様のお力をお貸しください。具体的な事業日程や基金等については，センターの以下の web ページで随時お知らせいたします。

https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/rihe50th/

藤村正司先生のご退職によせて

「思い出は，追い出されることのない唯一の楽園である」

藤村　正司

センターで11年間，お世話になりました。実は，赴任以前にも何度かお誘いがありましたが，結局センターに戻ったのが50代半ば。野球に例えると，ゲームの終盤で登板してなんとか投げ切ったという感じです（英語で言えば，Muddling through でしょうか）。案の定，25年間学部教員であったためか，文科省の天領のような広島大学や執行部系の RIHE に慣れるのに時間がかかりましたが，最後まで適応できないままでした。着任1年で柄にもなくセンター長に就きましたが，肌に合わず一期で放り出した通りです。9回まで持ち堪えられたのは，センターの皆さんのご支援と見て見ぬふりのお陰です。

しかし，CC. メールの多さを別にすれば，センターは天国です（のはずでした）。ところが，物事の有難味は失ってみて初めて分かるように，負担と思っていた授業準備，学生指導，そして組合運動が教

藤村先生が育てたお花（センター玄関前に色々な季節の花を植えてくださいました）

員生活の主旋律であったこと気付きました。授業負担が軽くなっても研究とあまり関係しないこと，学内情報を得るという点でセンターは「陸の孤島」であることがわかりました。

ところで，還暦を過ぎた古参の方はご存じのように，RIHE の前身は大学教育研究センターです。この学内共同施設は，今風に言うと学生紛争後の広大改革のための IR として誕生しましたが，実際は文部省の IR として，あるいは国際共同研究のハブとして機能しました（アンチ文部省の当時，文部省のやりたい調査はセンターが請け負って重宝されました）。センターは創設以来，ダブル・スタンダードを強いられていたのですが，それが消化できたのは喜多村先生曰く「センターに対する砂を噛むような無関心」，数年で異動する若手教員，そして何よりも教職員の強い「センター愛」があったからです。とりわけ，スタッフの献身さと客員研究員制度は，創立50年を支えてきた陰の力だと思います。もっとも，赴任以来「センター，センター」と何百回も聞かされて，「センター愛」に欠ける私には最後まで馴染めないことでした。

このような気安いことが書けるのは，私がもう広大にいないからです。振り返ってみると RIHE との最初の出会いは，修士1年次（1980年）に受講した喜多村和之先生の教育行財政演習でした。以来，センターを介して知り得た方々との「思い出は，追い出されることのない唯一の楽園」（J. パウル）です。

最後に，PM 理論ではないですが，コロナ禍が一段落したら目標達成機能（AKPI）だけでなく，集団維持機能（飲み会）を復活されると良いかと思います。皆さまの益々のご活躍と RIHE のテニュア獲得を祈念します。お元気で。

藤村先生　長年のお勤めご苦労様でした。
お世話になりました。これからもよろしく。

大膳　司

（広島大学高等教育研究開発センター副センター長／教授）

藤村先生との出会いは広島大学大学院教育学研究科教育社会学研究室である。

昭和57（1982）年に私が修士課程に進学した時，藤村先生は博士課程に進学された。

その後，私は4年間在籍し，最後の年には，藤村先生が助手をされた。

その4年間の藤村先生に関して今でも思い起こされる場面がある。ひょうひょうとした表情で，英語論文を片手に院生控え室に現れる藤村先生，積まれた英語の本をコピーしている藤村先生，研究室の共同研究のデータ入力を無視して研究室を出ていく藤村先生，である。この頃から，藤村先生は，自身の研究や与えられた仕事はきっちりとこなすが，雑用（らしきこと）にはまったく関わろうとしない方針でやってきたのではないかと思われる。この方針は，研究者としての本筋を貫こうとしている藤村先生の生き方なのだと私は思っている。

その後，私は大学教育研究センターの助手になり，藤村先生は新潟大学に赴任された。

我々の職場は別々になったが，有本章先生が開催されているアカデミックプロフェッション研究会でご一緒させていただき，いろいろと学ばせていただいた。

その後，藤村先生が平成23（2011）年4月にセンターに異動されてから，一緒に仕事をさせていただいた。平成24（2012）年から2年間，藤村先生はセンター長をされて，現行の新大学院改革を主導された。

藤村先生の真骨頂は，分析力と文章力であり，その能力を背景に，多くの独創的な研究成果を出されてきたことは周知の事実である。藤村先生は，今でも，昼休憩中，持久力と体力が必要なサッカーを楽しんでおり，元気である。退職後も，頑張っていただきたい。

これからもご指導よろしくお願いします。

藤村正司先生のご退職によせて

陸　燕黎
（2021年度広島大学博士課程前期修了生）

藤村先生には，博士課程前期の間，指導教員としてお世話になりました。

まずは，RIHE に，藤村先生に感謝の気持ちを伝えるチャンスを頂きましたこと，心から感謝致します。

藤村先生は，私の人生を新しい段階へ導いてくださり，努力の方向を教え，夢の実現を可能にしてくださった人です。この恩を深く心の中に刻み，永遠に忘れません！

藤村先生は彼の教え方からも良く分かるように，非常に優しくて親切な先生です。一対一で私に特別研究指導をしてくださり，しばしば資料をくださるのみならず，授業の中では比喩を用いていつも分かりやすく説明してくださりました。

例えば，主成分分析を傘に例えたり，学校の電子回路を用いて難解な因果推論の授業で説明したり，研究と発表を料理に例えたりしました。このように，藤村先生は授業の中で日常生活に基づいた事例を常に挙げてくれます。そのため，日本語がそれほど得意でない私にとって，このような説明はとても温かく感じられました。また，先生の説明は面白いため，長時間聞いていても集中力を維持することができました。

一方，藤村先生は研究・勉強に非常に真剣に熱心に取り組まれます。研究の質と内容からタイトルや出典まで，非常に強いこだわりを持っておられます。私も，グラフの補助線の太さや，フォントなどについて注意されたりしていました。先生の厳しいご指導に，とても感謝しております。

2年半の時を振り返ると，藤村先生の親切さと厳格さは，私の人生の貴重な財産であると思います。

藤村先生，ありがとうございました。

藤村正司先生のご退職によせて

林田　千織
（福岡大学人事課）

藤村先生との出会いは，学部4年生だった2007年7月でした。初めての広島，初めての研究室訪問で，胸が高鳴った一日でした。先生が広大に着任されてから，私が初めてのゼミ生ということもあり，温かく迎え入れてくださったことをよく覚えています。入学後は，藤村先生から「研究とは何か？」を研究のいろはを重点的に教わりました。無知の私には，先生の物事に対する見方にとても刺激を受け，自分の視野が真新しく広がった感覚に溢れていました。温厚な先生の授業は，和気あいあいとした雰囲気でした。しかし，時には課題やレポートに対して，厳しく指導をいただきました。また，先生から，文章力を磨くために，本を読むように言われておりました。今は週1冊のペースで小説を読んでいます。当時の自分を顧みると，深夜まで研究にひたむきだった先生の背中を見ながら，先生の研究力を吸収したいと思う一心でした。ようやく研究の基礎を学んだところで，修士を修了したことは悔やまれることでした。

修了してから，まもなく8年が経とうとしています。驚きですが，当時の授業ノートを机に広げる時間が増えています。実は今現在，人事課に所属し，事務職員採用の担当として，業界研究説明会やインターンシップを企画・実施しています。大学業界とはどのような業界なのか？事務職員とはどのような仕事なのか？大学は今後どう向かうのか？様々な情報を大学生に提供しています。優秀な職員を確保するためには，どのような内容が魅力的なのか模索の毎日です。そこで，授業ノートを開き，大学院生に戻った気持ちで，一から学び直しています。ノートの1ページ目は，藤村先生から教わった研究のいろはがつづられています。常に基礎に立ち返ることから始め，研究的目線で大学を見つめ直してみること

で，新鮮な業界研究を展開できると確信しています。

若かりし20代では先生の発言の価値を真に理解できずとも，とにかくメモを取っていました。メモを見返すことによって，インプットしていたものが，今ようやく自分自身の言葉として，アウトプットできつつあることを体感しています。先生から教わった学びが，こうした形で実務に応用でき，務めている大学に貢献できていることを大変嬉しく思っています。

藤村先生，ご指導いただき，本当にありがとうございました。先生からご指導いただいたことを糧に今後も邁進してまいります。

第49回研究員集会報告

村澤　昌崇
（広島大学高等教育研究開発センター副センター長／准教授）

2021年度の研究員集会は，「広島大学本部との連携性を強める」「RIHE50周年を迎えるにあたり，高等教育の新しい課題を発掘する」という二つの狙いを定め，2021年11月26日にオンラインにより開催いたしました。

第一部は，午前中に広島大学グローバル化推進室との連携によるシンポジウムとし，数年来広島大学が導入・実施しているSERU(Student Experience in the Research University)学生調査アンケートの最新集計と分析を披露しました。本調査はUCバークレーが主催する世界規模の研究大学を対象とした調査であり，RIHEのメンバーも分析に参画しており，定期的にその成果を世界各国で開催される会合でも紹介してきました。

第二部は，午後から『「責任ある・使命ある大学」の将来像を語ろう！』と題して，これまでに高等教育の研究や実践に関わってきた方，学際領域の方々にご登壇いただくことにより，高等教育研究や実践が取り組むべき新しい課題を発掘することを目的とした会合を企画しました。

こうした企画を立ち上げた背景には，世界には，地球規模の病災害，貧困･格差･不平等，ジェンダー･LGBTQ，人の手を離れつつある高度な科学技術等，問題が山積しつつあり，高等教育による解決がこれまで以上に求められている，という認識がありました。そして今まさにコロナ禍やロシアによるウクライナ侵略といった深刻な事象の発生により，これらへの大学の対峙の仕方が問われ，大学のあり方に関する再定義を迫られているように思います。

そこで，そのような状況であることを踏まえつつ，中教審答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が提示されたことも睨みながら，このたびは，従来の高等教育関係者を超えた多くの方々に「将来あるべき大学像」について，思い思いの主張・ご意見を述べていただく機会を設けさせていただきました。

具体的には，従来どおりの基調講演に加え，内外の多様なお立場の方々にお集いいただきつつ，加えて「将来あるべき高等教育像」について一般公募も実施・選抜するという新機軸を打ち出しました。この新機軸に，オンラインならではの柔軟な運用を活用した情報交換会の場を設け，参加者の方々にも積極的に「未来のあるべき高等教育」に関する主張を気軽に自由に論じてもらうことにしました。

基調講演にご登壇いただいた二名の先生，そして「私の主張」にご登壇いただいた皆様の主張は，いずれも今後の高等教育のあり方を問うた重要な内容であり，その後のブレイクアウトルームに分かれての議論も，近年に無いくらいの熱い意見交換がなされました。

第1部，第2部ともに，100名を超える参加者があり，本年度の研究員集会を盛会裏のうちに終えることができました。

2021年度の公開研究会

開催した公開研究会のうち，講師の許諾のとれた資料･録画は，センター HP でウェブ公開（https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/video_and_materials/）しております。

また情報調査室にて視聴サービスもおこなっております。ぜひご活用ください。

＊肩書は当時のもの

	講　　師	テ　ー　マ
第1回 （2021/5/8 ）	宮田　弘一（広島大学博士課程修了生） 潘　　秋静（広島大学博士課程修了生）	**博士学位シリーズ** キャリア教育の義務化を問う：イシューアプローチの視座から 中国における独立学院の展開と将来：その教育効果の実証分析
第2回 （2021/5/17）	村澤　昌崇（広島大学高等教育研究開発センター准教授） 中尾　　走（日本学術振興会特別研究員／広島大学大学院博士課程後期） 樊　　怡舟（広島大学大学院博士課程後期）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 若手・中堅研究者共同研究シリーズ： 専門職に関する調査研究① －Web 調査の可能性を探る－
第3回 （2021/5/25）	石田　　力（マイナビ株式会社） 東郷こずえ（マイナビ株式会社） 宮田　弘一（広島大学博士課程修了生） 梅崎　　修（法政大学教授） 佐藤　　憲（川崎商工会議所／法政大学大学院修了生）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** シリーズ･大学生の“今”を探る－マイナビ・大学生のライフスタイル調査から②
第4回 （2021/5/28）	Xian Wu（上海交通大学） Shuangye Chen（華東師範大学） Jun Cheol Shin（ソウル大学校） Chang Da Wan（マレーシア高等教育研究所） Rose C. Amazan（ニューサウスウェールズ大学） Jos de Jonge（オランダラテナウ研究所） William Locke（メルボルン大学） Xiushan Jiang（チャールストン大学）	アジアにおける外国人教員 －国際比較的視点－ **※本公開研究会は科学研究費　基盤（B）研究課題番号19H01640「外国人大学教員・研究者の役割と貢献に関する国際比較研究」（研究代表者：黄福涛）の研究活動の一環として開催された。**
第5回 （2021/6/25）	中尾　　走（日本学術振興会特別研究員／広島大学大学院博士課程後期） 樊　　怡舟（広島大学大学院博士課程後期）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 高等教育研究のための計量手法の整理
第6回 （2021/6/29）	野内　　玲（信州大学助教）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** シリーズ・研究倫理を考える①アンケート調査の結果から
第7回 （2021/7/19）	Jin-Kwon LEE（ソウル大学校研究員）	大学の公共性：談話と効率性の分析
第8回 （2021/7/31）	坂無　　淳（福岡県立大学講師）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 若手・中堅研究者共同研究シリーズ：専門職に関する調査研究②
第9回 （2021/9/17）	李　　敏（信州大学准教授）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 中国人留学生が日本で高等教育を学習・研究するにはどうすればよいか

	講　　師	テ　ー　マ
第10回 (2021/9/24)	橋野　晶寛（東京大学准教授）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 教育政策・行政の考え方と高等教育
第11回 (2021/10/16)	立石　慎治（筑波大学助教）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 若手・中堅研究者共同研究シリーズ： 専門職に関する調査研究③
第12回 (2021/11/22)	鈴木達治郎（長崎大学教授 ） 西山　淳一（未来工学研究所研究参与） 小林　信一（広島大学高等教育研究開発センター長／教授） 辻　　篤子（中部大学特任教授）	デュアルユース技術と大学
第13回 (2021/12/10)	李　　敏（信州大学准教授）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 中国人留学生が日本で高等教育を学習・研究するにはどうすればよいか ー学位論文の執筆を中心に
第14回 (2022/2/6)	Anthony Welch（シドニー大学） Qiongqiong Chen & Yuan Li（南方科技大学） Li-fang Zhang & Zhengli Xie（香港大学） Ming Li（大阪大学） Futao Huang（広島大学高等教育研究開発センター） LIU Hong & HUANG Xi（南洋理工大学） Yangson Kim（広島大学高等教育研究開発センター） Inyoung Song（韓国大学教育協議会韓国大学評価院） Giulio Marini（ロンドン大学） Toma Pustelnikovaite（アバティー大学） Xin Xu（オックスフォード大学） Andrea Braun Střelcová （マックス・プランク人類史科学研究所） Giulio Marini（ロンドン大学） Yuzhuo Cai（タンペレ大学） Dongbin Kim & Sehee Kim（ミシガン州立大学）	国際比較的視点からみた外国人教員・研究者 ー彼ら / 彼女らの特徴，役割と貢献ー **※本公開研究会は科学研究費　基盤（B）研究課題番号19H01640「外国人大学教員・研究者の役割と貢献に関する国際比較研究」（研究代表者：黄福涛）の研究活動の一環として開催された。**
第15回 (2022/3/3)	黒沼　敦子（東京大学大学院博士課程）	**国際共同研究推進事業　令和3年度採択者による公開研究会** 米国大学における地域連携学習（SLCE）を通した市民学習ー専門職の役割と関与を中心に
第16回 (2022/3/18)	平尾　智隆（摂南大学准教授）	**高等教育研究資源ナショナルセンター企画** 大学院卒の就職プレミアムー残された課題の検討
第17回 (2022/3/28)	国分　峰樹（東京大学大学院博士課程）	**国際共同研究推進事業　令和3年度採択者による公開研究会** 研究大学モデルの革新に関する研究

※上記の他，今年度は，『IR よろず相談会』を6/4，8/6，10/22，1/14，3/11，3/25の年6回開催しました。

センター往来【2021年4月～2022年3月】

＊所属は当時のもの（敬称略）

＜2021年＞

4月	【サバティカル研修】鳥居　朋子（立命館大学）
5～6月	なし
7・8・9月	羽田　貴史（東北大学・広島大学名誉教授）
10月	戸村　　理（東北大学）
11月	原田健太郎（島根大学），佐藤　万知（京都大学）
12月	羽田　貴史（東北大学・広島大学名誉教授）

＜2022年＞

1～2月	なし
3月	坂詰　貴司（学校法人芝学園）

新任者・離任者から一言

2022年度客員研究員

有信　睦弘（ありのぶ　むつひろ）
叡啓大学学長

客員研究員の機会を与えていただき有難うございます。これまで30年以上民間企業で働き，その後10年余り国立大学や国立研究所の運営に携わり，昨年4月から新設の県立大学の学長を務めています。高等教育施策に関して，民間企業在職中から中央教育審議会の高等教育の議論に関わるとともに，工学教育のアクレディテーション等にも取り組んできました。現在の関心事は，入学試験の成績と入学後の成績にあまり相関がなく，大学の成績と社会に出てからの成績にもあまり相関がないと言われていることです。新設の大学では新しい社会を牽引していくことのできるコンピテンシーを身につけた若者を育てようとしています。宜しくお願いします。

一宮　航（いちみや　わたる）
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
大学業務支援部コンサルタント

この度，貴センター客員研究員を拝命し誠に光栄に存じます。私は2014年に入社し，主に研究員やコンサルタントとして，公的資金事業（高大接続や産学連携など）における事務局運営をはじめとしたプロジェクトマネジメントや調査・分析を担当して参りました。また，マーケティング担当として，各大学向けのサービス提案（特に研究支援や留学生募集調査）やセミナー企画運営を実施しております。今回いただいた貴重な機会を活かし，これからの大学と社会の発展に貢献できる大学関連会社の在り方やサービスを研究して参りたいと考えております。何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

合田　哲雄（ごうだ　てつお）
内閣府科学技術・イノベーション
推進事務局審議官

この度，広島大学高等教育研究開発センターの客員研究員を拝命いたしました。浅学非才な私が甚だ僭越ではありますが，貴重な機会をいただきましたことに心から感謝申し上げますとともに，研究者と行政官との相互作用に自分なりに取り組みたいと存じております。

青木栄一東北大学教授が指摘する「政治主導教育改革」における大学政策は，アクターも形成過程も大きく変容しています。時々刻々変化する状況のなかで持続可能でレリバンスある政策を形成するためには，文部科学省がその専門性を高め，永田町や官邸などにおけるネットワークを大きく広げることが不可欠であり，研究者の皆様との対話と協働はその意味で大変重要だと存じております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

清水　裕士（しみず　ひろし）
関西学院大学社会学部教授

2022年4月より客員研究員にお招きいただきありがとうございます。関西学院大学社会学部の清水裕士と申します。私の専門は社会心理学で，特に人々の規範意識の分析や測定に興味があります。社会の中で規範がどのようにできるのか，また人々の社会意識をどのように可視化あるいは測定ができるのかについて研究を行っております。また，心理測定や心理統計についても関心があります。広島大学は私が関西学院に赴任する前に3年半お世話になっていた（総合科学研究科助教），懐かしの場所でもあります。この場所で客員研究員として高等教育の研究にご協力できることを嬉しく思います。何卒よろしくお願いします。

田中　秀明（たなか　ひであき）
明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授

この4月に客員研究員に就任いたしました。歴史と伝統があり，そして国内有数の高等教育研究の拠点となっている高等教育研究開発センターに関わることになり，たいへん光栄に思っています。はなはだ微力ですが，少しでもセンターの教育研究活動に貢献したいと思っておりますので，どうぞよろしくお願いいたします。

私はもともと国家公務員として財務省で働いていましたが，2012年に明治大学に移りました。主な研究分野は，財政・予算制度，社会保障，公共政策やガバナンス論などです。高等教育に関しては，特に国立大学法人のガバナンス，評価や運営費交付金について研究してきました。今後，皆様と議論させていただくことを楽しみしています。

筒井　淳也（つつい　じゅんや）
立命館大学教授

この度は，貴センターの客員研究員にお招きいただき，ありがとうございます。村澤先生とは以前から研究会等でご縁がありました。教育研究とはあまり接点がなく，家族や働き方について計量データをもとに社会学の見地から調査分析を行ってきた私をお招きいただいたのは，おそらく私が社会科学における方法論についていくつか考察をしてきたことが理由なのではないかと推察しております。研究の目的に合致した方法・手法を選び取ることは，多くの研究者にとってはすでにできていることですが，ときに混乱が生じることもあり，一定の整理が必要になってくることがあります。数量データが豊富な教育研究でも，このことはある程度あてはまるように思います。微力ながら，貢献できるように努力してまいりますので，よろしくお願いします。

遠峯　由里子（とおみね　ゆりこ）
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
社会連携企画部コンサルタント

このたびは貴センター客員研究員の機会をいただきましてありがとうございます。これまで大学の関連会社として，早稲田大学への支援事業だけでなく，早稲田大学以外に向けた社会人教育事業や大学職員向け人材開発の支援などを行ってまいりました。今後は貴センターと関わらせていただく機会を活かし，学術的な裏付けのもと，高等教育の研究・教育・経営を支援する会社としての強みを確立していければと考えております。ご指導のほど，どうぞよろしくお願いいたします。

2022年度学内研究員

中空　萌（なかぞら　もえ）
大学院人間社会科学研究科講師

このたびは，学内研究員を拝命し，誠にありがとうございます。私は2018年に旧国際協力研究科に着任し，現在は人間社会科学研究科国際平和共生プログラムにおいて研究教育活動に従事しております。私の研究は主として文化人類学の立場から，インドをフィールドに，自然環境と開発をめぐる様々な問題について研究していますが（主著『知的所有権の人類学』），これまで法学，生態学，建築学など他分野の研究者との共同研究から多くの示唆を得てきました。今回このような機会をいただき，高等教育を専門とされる先生方から新しい視点を学ばせていただけるのを楽しみにしております。ご指導，ご鞭撻のほど，どうかよろしくお願いいたします。

米沢　崇（よねざわ　たかし）
大学院人間社会科学研究科准教授

この度は，貴センターの学内研究員の機会をいただき誠にありがとうございます。私は教師教育学を専門とし，養成段階に

おける教職志望学生の学びや現職段階における教師の成長に関する研究を行っております。また，教育学部初等教育教員養成プログラムの教員として，小学校教員を目指す大学生の教育に携わっております。我が国の教員養成系大学・学部では，教員養成フラッグシップ大学の創設など，教員養成の在り方が大きく変革しようとしています。そのような中で，高等教育研究で蓄積されている知見から多くのことを学ぶことができると考えております。RIHE において多くの皆様との交流を通して，自分自身の研究と教育実践の視野を広げるとともに，微力ながら貴センターの活動に貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2021・2022 年度新任教職員

戸田　由加（とだ　ゆか）
高等教育研究開発センター教育研究補助職員
（2021年12月着任）

令和3年12月より，教育研究補助職員としてお世話になっております。

数十年前に大学を卒業して以来，教育というものには無縁の生活を送っており，これまでの仕事も，主に建築設計事務所で店舗のデザイン設計をしておりました。教育に関わる職場は人生で初めてということもあり，色々なことが新鮮で新しい発見も多く，心が弾む毎日です。

こちらでの仕事には，まだ不慣れな点も多く，ご迷惑をおかけすることもありますが，早く皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので，どうぞ宜しくお願い致します。

櫻井　勇介（さくらい　ゆうすけ）
教育学習支援センター／
高等教育研究開発センター准教授
（2022年4月着任）

本年度より教育学習支援センターに配属されます櫻井勇介と申します。最近の研究では，留学生の学習経験，短期国際プログラム履修生の学び，外国人若手研究者の能力開発や支援に関わるものを取り扱ってきました。出身は新潟で，学部は東京，修士課程はオーストラリアで，博士課程はフィンランドでした。タイでは高校教員，マレーシアとエジプトでは大学教員としての勤務経験があります。また学部，修士課程では日本語を学ぶ外国人に注目する日本語教育の分野で勉強をしていたこともあり，様々な地理的，学問分野的な越境をしてきました。大学教員の国際性と流動性が叫ばれる近年の動向も鑑み，これらの経験も生かして業務に貢献していければと考えています。

2021 年度離任者

蝶　慎一（ちょう　しんいち）
香川大学准教授

東京で大学院生をしていた頃から高等教育研究開発センター（RIHE）は，憧れの場所です。2020年4月から RIHE の一員に加えていただき，「若手研究者」「大学教員」としてかけがえのない日々を過ごすことができました。着任と同時に発足した教育学習支援センター（CAPR）では，併任教員として大学院生スタッフと一緒に創り上げる楽しさを実感しました。また，Hirodai TA 制度の推進，「大学教員養成講座」の授業運営，修論指導，研究倫理審査，コロナ禍に係る教授学習の情報収集，学内外の研究者との共同研究など2年という短い期間に多様な業務に携わらせていただきました。小林信一センター長，奥様をはじめ，RIHE の先生・事務職員，学生の皆様には心より御礼申し上げます。引き続き，ご一緒させていただければ幸いに存じます。

修了生

汪　嘉琪（おう　かき）
博士課程前期修了（2022年3月）

修了生の汪です。コロナ禍でしたが，博士課程前期を無事修了できました。主指導教員の大膳先生をはじめ，たくさんの先生方々や院生の皆さんのご指導のもとで，無事修了できて大変うれしく思っております。

二年間の院生生活を振り返りますと，RIHE の皆様のおかげで，研究や修論のことだけではなく，生活の面でも色々と助けていただきました。自分の研究も順調に進み，有意義な留学生活を過ごせました。

今後も，RIHE で得られたことを活用するとともに，社会人として学び続けられるよう頑張っていきます。センターの皆様にいろいろとお世話になりましたことを心から感謝し，お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

橋本　あや（はしもと　あや）
博士課程前期修了（2022年3月）

入学から3年，博士課程前期を修了することができました。ご指導くださった大場先生はじめ先生方，ご支援くださったRIHEスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。

振り返ると，忙しく・楽しく・苦しくて，充実した3年間でした。

時間をやりくりして授業に出席し，課題を提出することは困難ではありましたが，大学院の授業はどれも魅力的で楽しみな時間でした。ほとんどの科目を夜間や週末に開講していただいたので，仕事をしながら受講することができました。ご配慮くださった先生方，受講生の皆さん，ありがとうございました。

満足な研究ができなかったことには悔いが残りますが，自身の努力不足，能力不足の結果でしかありません。これについては，学び直さなければならないと思っているところです。

馬　聡聡（ば　そうそう）
博士課程前期修了（2022年3月）

日本での留学生活も終わりに近づき，懐しさや悲しみを感じています。入学からの年月を振り返りますと，様々なかけがえのない体験をして参りました。日々の勉学や公開研究会はもちろんのこと，在学中に先生方から教えて頂いたこと，そして先輩方と過ごす中で得たことは計り知れず，私の今後の人生における貴重な財産です。専門の学習以外にも，日本語能力を上達させる国際活動に参加して視野も広げました。それらの経験は，私の留学生活を豊かにさせ，自分自身を成長させて頂いたと思います。素晴らしい先生方や研究室の皆様とこのような時間を共有できましたことは，在学中は当たり前のように感じておりましたが，今振り返りますと懐かしい思い出です。将来，私は，RIHEで学んだことを社会人生活においても存分に生かし，広島大学の卒業生の名に恥じぬ活躍ができるよう精進して参ります。

陸　燕黎（りく　えんれい）
博士課程前期修了（2022年3月）

2020年4月，社会人から，学生生活に戻りました。嬉しくて緊張しました。過去の二年間を振りかえると，研究生活は易しいものではなく，苦しい時もよくありました。このような時に，いつもセンターの皆様が支援してくださって，なんとか乗り越えられました。心から感謝しております。

また，この機に，優しくて親切な小林信一先生の奥様に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。私を暗闇から何度も救い出してくれた恩を深く心の中に刻み，永遠に忘れません！奥様の指導を思い出しながら，彼女のように，他人に温もりをもたらす人になるように，頑張ります。

前田　一之（まえだ　かずゆき）
博士課程後期修了（2022年3月）

RIHEを初めて訪問した2010年12月，資料室の膨大な高等教育関係の蔵書群に圧倒された感覚を今でも鮮明に覚えています。翌春，博士前期課程に入学，2013年には，後期課程へ進学し，9年という年月を要しましたが，学位を取得し，課程を修了することができました。この間，ご指導いただいたRIHEの先生方，とりわけ，前期課程入学以降，一貫して，薫陶を賜った大場先生に心から感謝を申し上げます。この間，二度の勤務先の異動によって，身辺の環境も大きく変化し，まさに，光陰矢の如く過ぎ去った感があります。来年度，創立50周年という節目を迎えられるRIHEが，わが国における高等教育の中心として，一層のご発展をとげられることを祈念しています。

三上　亮（みかみ　りょう）
博士課程後期修了（2022年3月）

この度，博士後期課程を修了し博士学位を取得させていただきました。ここにいたるまで，RIHEの先生方や，事務，情報調査室の皆さまには大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

また，前期課程に入学した頃から，右も左も分からなかった私にご指導くださった諸先輩方にも深く感謝いたします。今後も，理学療法士である自らの経験を活かし，学位論文のテーマであった専門職教育に焦点を当てて研究を継続してまいり

ます。そして，高等教育研究に貢献できるよう，一歩ずつ研鑽を続けていく所存ですので，ご指導いただけますと幸いです。どうぞ，よろしくお願いいたします。最後になりましたが，皆さまの健康と発展を祈念しております。

新入生

秦　藝臻（しん　げいしん）
博士課程前期入学（2022年4月）
※研究生（2021年10月入学）より進学

2022年4月より博士前期課程に進学した秦藝臻と申します。2021年10月に研究生として入学してから，高等教育に関する知識や研究方法などを勉強し，半年間の研究生生活を充実して過ごしました。2021年度はコロナのせいで渡日できませんでしたが，オンライン授業などの方式で先生方や先輩たちにお世話になり，心から感謝しております。

私は高等教育でのジェンダー格差，特に女性の高等教育の現状に興味があります。今後の女性の高等教育課程の充実を目指して，各年齢段階の女性を対象とする高等教育プログラムの現状を研究し，その中で存在する問題点を解明した上で，対策を検討したいと思っています。高等教育学については体系的な教育を受けていませんが，知識の不足を補い，興味のある研究課題を順調に進めるために，しっかり勉強したいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

曽　敏（そう　びん）
博士課程前期入学（2022年4月）
※研究生（2021年10月入学）より進学

2022年4月より，博士課程前期に進学した曽敏と申します。現在中国における大学進学率の都市農村間格差について関心を持ち，農村の学生が自分の能力によって出身の桎梏を脱し，大学へ進学できるのかを考察しようと思っています。

コロナの影響で学習や研究はオンラインで行われていましたが，金先生をはじめ，諸先生方に大変お世話になっており，心から感謝しています。RIHE の先輩もいつも熱心に助言をくださり，ありがとうございます。研究生期間の半年で，高等教育について色々と勉強し，自分の力不足も痛感しました。これからの学習生活の中で，基礎知識だけではなく，批判的思考力や研究能力を高めることを目指して頑張りたいと思います。また留学生活の中で，日本の文化を理解し，国際的視野を広げたいと思っています。

張　雅琪（ちょう　がき）
博士課程前期入学（2022年4月）
※研究生（2021年10月入学）より進学

初めまして。2022年4月よりお世話になる張雅琪と申します。大学でビジネス日本語を専攻したので，卒業後は一旦仕事をしておりましたが，いつか日本に留学したいという夢を抱いており，就職2年後に会社を辞めて，RIHE に進学しました。

今日のポストコロナ時代において，対面授業の再開に伴い，大学生不登校の実態はどんな変化を起こしているかについて明らかにしたく，また実証調査を通して，不登校大学生の支援に対して有益な情報を得たいと思っています。

研究生期間の半年は中国で過ごしましたが，その間にも RIHE の先生や先輩方から，いろんな助けをいただき，皆様のおかげで，高等教育に関する知識をたくさん身に付けられました。

今年，桜が咲く季節に，ようやく日本に来ることができ，すごく期待しております！

松本　亮平（まつもと　りょうへい）
博士課程前期入学（2022年4月）

こんにちは。2022年4月より博士課程前期に入学いたしました松本と申します。2019年から大学職員として勤務しており，学生のキャリア支援を担当しております。そのキャリア支援業務の中で，学生が卒業後の進路を意識しながら自己と対話することを通じて自律的にキャリア形成に向けた行動計画を立てていけるよう，全学生にコーチングを実施しています。高等教育学コースでは，この取り組みについて学術的見地から効果の検証を行いたいと考え，研究テーマとして設定しています。社会人学生となりますので，仕事と勉学を両立できるよう，諸先生方をはじめ，先輩や同級生の皆さんにもいろいろと教えていただきながら研究を進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

※上記の方々以外に，2022年4月は，胡　婧宜さん，蔡　媛さん，莫　晟さんが博士課程前期に入学されました。（研究生より進学（2021年4月入学），前年掲載のため省略）

猿田　静木（さるた　しずき）

博士課程後期入学（2022年4月）

この度，博士課程後期に入学致しました猿田静木と申します。広島大学とは別の大学で修士課程を卒業後，数年働いておりました。仕事をする中で様々なことを経験し，自分の人生設計を見つめ直したとき，研究の場へ戻りたいという気持ちが強くなりました。色々なご縁に恵まれ，この広島大学の高等教育センターという素晴らしい環境で研究生活を再開することができ，とても嬉しく思います。私にとって博士課程後期進学は大きな挑戦です。ブランクを経ての研究活動や環境の変化に自分自身がついていけるのか不安もありますが，RIHE の皆様のサポートを賜りながら研鑽を積みたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

程　文娟（てい　ぶんけん）

博士課程後期入学（2022年4月）

初めまして，この春より博士後期課程でお世話になる程文娟（テイブンケン）と申します。私は2019年に来日し，お茶の水女子大学で研究生や修士として櫻井先生の指導を受けました。この度も櫻井先生のおかげで，RIHE の皆さんと巡り会えて本当に嬉しく思います。研究の関心について，博士前期段階には国際共修授業における留学生の異文化間コミュニケーションの成否とその影響要因を整理してきました。後期段階には，視野をもっと広げ，異文化環境における留学生のインフォーマルな学びを深く理解していきたいです。

これから，歴史が長くて自然が豊かな広島大学で RIHE の先生方，皆様と楽しく実りのある研究生活を送れるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

研究生

王　春雨（おう　しゅんう）

（2022年4月入学）

はじめまして！この春よりお世話になる王春雨と申します。このたび，歴史と伝統ある広島大学の RIHE に受け入れられて大変感激しております。

私は中国高等教育の地域教育の格差に関する研究に興味を持っており，これから先生のご指導の下で，先輩たちと一緒に研究を精一杯がんばりたいと思っています。

現段階で私にとって一番重要な目標は来年試験の合格を目指して，大学院生になることです。これから，しっかりと勉強し，より多くの知識を身につけ，目標に向けて，一生懸命頑張ります。このまたとない機会を大切にして，視野を広げ，研究を一層深めることを望んでいます。これからよろしくお願い致します。

李　国鴻（り　こくこう）

（2022年4月入学）

初めまして，2022年4月より研究生として入学した李国鴻と申します。2016年9月に来日し，2018年4月に神戸の大学に進学しました。在学期間中に，現在中国の大学ではどのようなカリキュラムで日本語教育を行っているかについて興味を持つようになりましたので，大学の卒業論文は，現代中国の大学の日本語教育に関する研究を行なっておりました。

卒論の継続で，今後は「中国人日本語学習者の日本語学習の目的とニーズに関する研究」をテーマに研究していきたいと思っております。

先生方のご指導のもとで，高等教育知識，自分の研究の問題意識を明らかにして，研究方法やデータ分析に関する知識を身に付けながら，博士課程前期へ進学できるように，精一杯頑張っていきます。よろしくお願い致します。

李　博然（り　はくぜん）

（2022年4月入学）

はじめまして，2022年4月より研究生として，お世話になる李博然と申します。2019年に大学を卒業して，一旦仕事をしておりましたが，新型コロナの影響をきっかけに，オンラインのクラスで日本語を勉強し始めました。オンラインの日本語学習を切り口に，研究課題もオンラインの日本語教育に焦点を当てました。歴史のある高等教育研究開発センター（RIHE）で，皆さんとともに研究することを楽しみにしております。これから大学院への進学を目指して，一生懸命勉強したいと思います。今後，どうぞよろしくお願いいたします。

※上記の方々以外に，2021年10月から姜　凡さんが研究生として在籍しております。姜さんは，中国政府「国家建設高水平大学公派研究生」の共同養成博士研究生として2022年9月末まで在籍する予定です。

情報調査室だより

情報調査室の HP
ができました。

https://rihe.hiroshima-u.ac.jp
/publications/rihe-library/

「お知らせ」には新着図書リストを掲載

Photo Gallary

利用案内

https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/publications/rihe-library/usage-guide/